

激増するプラスチックごみ 街に！海に！

プラスチックごみによる環境汚染が世界中で問題になっています。特に海洋汚染は深刻で、クジラをはじめ多くの海洋生物はプラスチックごみが原因で生命の危機に瀕しているといわれています。このまま対策をとらなければ2050年には、海には魚よりプラスチックごみの方が多くなるという予測もあります。

鎌倉リサイクル推進会議では、昨年プラスチックフリージャパン理事長、小島政行さんの講演による学習会を開催、その内容をもとにプラスチックごみについて考えてみました。

プラスチックの特性

よいところ

- 軽くて丈夫で長持ち・断熱性に富む
- 成形しやすい・さびや腐食に強い
- 水や薬品にも強い・透明で着色も可能
- 安価で大量生産が可能・物流コストも抑えられる・大量消費、使い捨てにぴったり
- 医療の進歩に貢献
- 自動車、航空機、スマホなどの軽量化
- 燃料消費の削減、大気汚染を減少
- 食品の鮮度保持、運送費の軽減



困ったところ

- 自然界では消滅しない
- 種類が多くリサイクルしにくい
- 太陽光や熱や衝撃に弱い
- 化学物質による危険性（素材・添加物）

- ごみになる・・・細くなるとより危険
 - 海洋生物の生存に影響
 - 人間生活への影響
 - 気候、地球環境の汚染
 - 食物連鎖の危険
 - 魚、飲料水、食塩、大気、埃などに入り細胞膜を透過し体内に入る



漁網がからまって脱出できなくなったカメ

世界でプラごみを減らす動き

プラごみ問題への取り組みは世界中ですんでいます

- ① 各国で、各社で、各店舗で、ストロー、レジ袋、ペットボトルの廃止
- ② プラスチック製品の見直し
 - 自然に還るプラ容器の開発、利用
 - プラスチックごみの燃料化(RPF など)
- ③ 生産者側でのプラスチック製品抑制 (→ 拡大生産者責任)

* 昨年カナダで開催されたG7サミットで「海洋プラスチック憲章」が提案された。EU各国が署名する中、アメリカにならい、国内法が整備されていないという理由から日本は署名しなかった。



プラごみに締め付けられて変形したカメ

プラスチックフリージャパンとは

街にあふれるプラスチックごみの環境への影響に着目し、NPO 法人として2年前に設立。プラスチック汚染のない社会を目指しセミナーや映画会を全国的に展開、活動している。



小島政行さん

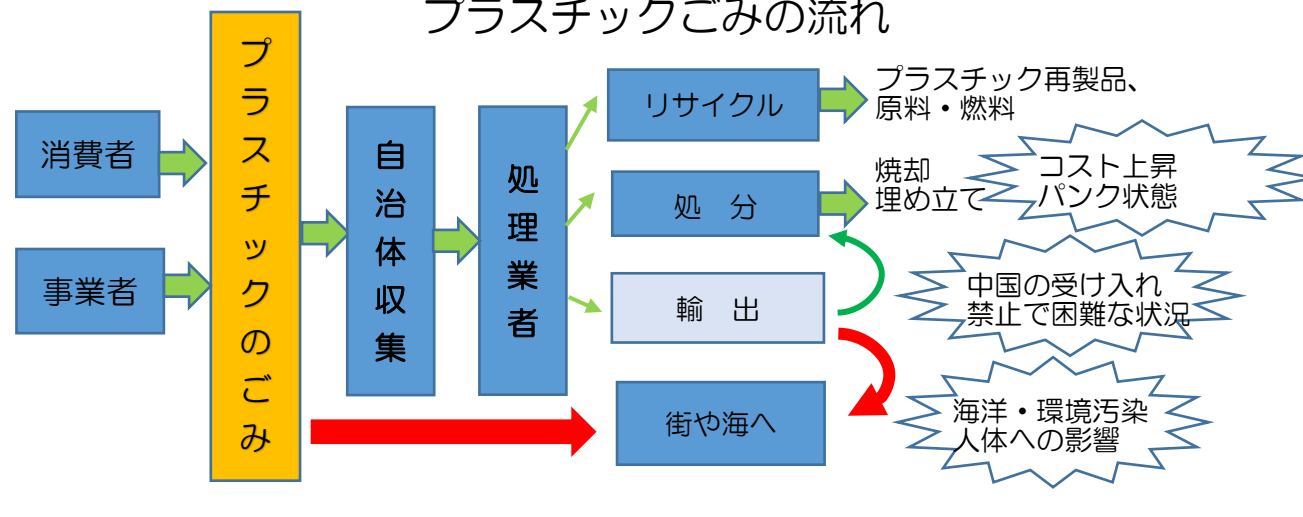
私たちが取り組むこと

- 使い捨て暮らしを見直そう。
- マイバッグを使おう。
- マイボトル、マイ箸を持とう。
- プラスチック製ストロー、スプーンを断ろう。
- ごみを減らすよう選んで買い物をしよう。
- 自分の排出量を知って抑制しよう
- 屋外の廃プラ製品を放置しない。
- ルール通りに、分別して出そう。



私たちの取り組みが企業や自治体、社会全体を動かすことができます！

プラスチックごみの流れ



鳥のお腹の中にはプラごみがいっぱい

◎ミニ知識◎

- * 海に流出するプラごみの7割は街から。タバコのフィルター、人工芝、園芸用品、レジ袋が側溝に落ち、川を下って海にながれつく。
- * 日本では、一人当たり年間178本のペットボトルを消費。このうち8割はリサイクルされているが2割はごみに。
- * 鎌倉市役所はこの春から自販機からペットボトル、ストロー付き紙パック飲料を撤去する。



協力：プラスチックフリージャパン